

『女性の視点から避難所を考えませんか？』第 3 回 会議録

- ◆開催日 平成 26 年 10 月 4 日（土） 14:00 開始
- ◆場 所 四谷ひろば B 館 3 階 ライブラリーにて
- ◆参加者 新宿区危機管理課 係長、四谷特別出張所担当
地域住民 14 名 計 16 名

配布資料：避難所備蓄倉庫の商品一覧、第三回次第、第二回議事録

14:10 開会

二回までの経過報告

- ・避難訓練を重ねてきているが、実際に地域の話を知っていると、町会長は地域のこと(救済等)が必要となるため、四谷ひろばに来て、避難所を立ち上げるということは難しい現状があることに気がついてきた。せっかくの訓練も生かせずに、強気の人に来て、物品の取合いになることは避けたい。一定のルールがあれば、みんなで仲良くできると思う。現実には災害があつての避難所の状況を聞く中で、「女性の視点からの事前の準備が必要である」ことを共通認識として持つことができた。例えば、四谷ひろばでは、グラウンド門のところに仮設トイレができるが、夜間の利用は想像ができない。他、授乳やおむつ替え等、町会長と連携を図る方向で、楽しくお茶会形式で意見交換をしている。
- ・避難訓練のときには、各担当ごとに練習をしているため、炊出し担当は避難所倉庫の中を見たことがなかった。そこで、前回、避難所倉庫を見学した時に、何があるかがわかりにくい、また、数が少ないことがわかった。そして、今後、備蓄品を確認して、整理や要望、「自宅で自分たちの食料やトイレの確保、水の確保などをしておく必要性」の周知が大事だと認識してきた。

※今回、備蓄物資一覧を配布し、どんなものが備蓄されているのかを理解し、実際に倉庫にどのように配置されているかを確認してみたいということだったので、まずは、表を確認して備蓄倉庫に行ってから意見交換や質疑応答となった。

* 備蓄倉庫見学 1 階元給食室を見学して

- ・倉庫右側のラック等は、保健センターが使用していたものを廃棄処分するというので払い下げていただいたものであり、今後、整理して移動していく。(ひろば事務局長)
- ・避難所によって、配置の環境は違う。四谷ひろばは、恵まれた広いスペースがある。狭いところでは、外置きプレハブになったりしているが、違法建築として、設置が難しくなっている。棚などをつくり、整理する予算もある。棚については、耐震を施す必要がある。ここは広いので、床置きで区分け整理することもできる。(危機管理課係長)
- ・かなり、埃っぽい。すきま風で、外から砂埃が入り込んでいる。⇒隙間風による。
- ・カップラーメンは、製造会社から寄贈されているが、交換される予定はないので、賞味期限が切れたら撤収となる。今年、各所の避難訓練時に配布しているため、11 月 30 日の四谷ひろば避難訓練の際に、参加者あてに配布することになるだろう。比較的、考えられて配置はされているものの、たくさんある避難所の物品の交換などにより、配置が変わっていきたりすることがある。⇒訓練前にチェックを兼ねて配置の確認をして、戻してから訓練があると良いと思う。(危機管理課係長)

15:00 茶話会 & テーブルごとの意見交換等

見学をしての感想等

- ・備蓄一覧の中に、ラップがない。実際に避難所の様子が報道されたときに、お皿に敷いたりとか、大変役に立っていたので、追加してほしい。
- ⇒意見として、よく出てくる。しかしながら、交換作業まで含めて考えると区の物資の中に入れるにはかなりの手間が増えるため、現実としては難しい。アルファ米などは、容器や箸も含めて用意しているものであり、すぐに必要になる対象ではない。ラップは、ご家庭にもあるものなので、落ち着いたときに自宅から持ち寄るという考え方もあるかと思う。(危機管理課係長)⇒四谷ひろばでイベント予備として保存可能。(ひろば事務局長)
- ・ゴミ袋はあるが、ビニール袋 大中小がない。ラップ同様に便利であると考えられる。使い捨て手袋、スーパーの袋も同様に意見があがった。

- ⇒区では、目的が明確化されているものにそって、備蓄品を用意している。今は、タンクの水だけでは足りないのではないかとということで水の増量も検討中。(危機管理課係長)
- ※元近隣企業より、定期的に賞味期限切れる寸前の水の提供がある。今年は、10/10に受け取るが、2リットルが400本。以前にも水やヘルメットの提供あり。(ひろば事務局長)
- ・実際に倉庫の中にあるものが、必要順に並んでいないと感じた。まず最初に優先順位としては、発電機だと考える。投光機が一番奥にある。また、その部品については離れた場所にあった。そして、トイレの設置。水道の蛇口の取り付けによる水の確保だと考える。(消防団所属メンバー)
 - ⇒懐中電灯などは、手が使えないので意外と不便であり、頭につけられるタイプは、両手が自由になり便利である。これも検討をしている。(危機管理課係長)
 - ・トイレの使い方は、実はよく理解していないと大変なことになる。バケツに水を汲んでおいて流すことをする必要があるが、使用する前に水を用意しておいて、空っぽのバケツを外に出しておけば、気がついた人が水を汲んでおくことができる。ご高齢な方への配慮も必要である。また、紙は流さない。溶けないので、詰まる。排水溝が詰まると大変なことになるため、別途ゴミ箱を用意しておいて別に回収することをしていく必要がある。(消防団所属メンバー) 四谷ひろばは、下水と直結しているタイプである。農園横にある水のタンクにトイレに流す水が用意されている。この水を汲んで、貯水し、定期的にレバーを持ち上げて水を流す必要があると習っている。(ひろば事務局長) さらにペットボトルで水を用意し流すと、溜らずにスムーズに流れやすい。(危機管理課係長)

15:45 閉会

危機管理課係長より

避難所によっては、「これだけはやりたい」といって、一般の住民参加のない訓練もある。必要に応じて工夫していくことも大事。訓練で、事前に練習しておくことによって、実際に本番に役立つことがある。少しずつレベルアップしていくことも大事。

ラップなど購入の予算については、避難所としてはとることが難しいこともあるので、注意してください。それぞれの町会には予算をつけていますが、全体でということになると難しいものです。また、区の避難所物資の数量の考え方は、新宿区全体を考えての配分です。地域によって被害の度合いが違っていれば、横に移動したりすることもあるということで、一定の基準によって用意しているものですから、地域全員の分を用意しているわけではありません。やはり、「各自で、建物が倒れない、トイレ、水の用意などは用意していくこと」を心がけてもらうことが大事です。

四谷ひろばの備蓄倉庫は広くゆとりがあるので、棚を作らなくても整理がつく。また、写真もあるので、パウチして、壁に貼っていくことも可能である。

※避難所は、基本一週間で、「学校」に譲り渡していくことが原則である。

⇒「四谷ひろば」は学校ではないので、きっと、まわりの撤収に伴い、逆に受け入れていく施設になっていくことも想定されると四谷ひろばでは考えている。(ひろば事務局長)

避難所運営管理協議会に報告等

- ① 女性の視点から考えていたら、備蓄倉庫の整理をしてみたいという話になった。優先順位(電気・水・トイレ)を考えて配置してみたい。
- ② メンバーから、一度設置作業もしてみたいという話が出た。危機管理課係長より、トイレ・蛇口はひろばの備蓄を使用できるが、投光機は現物をおろすと大変なので、練習用の持参が可能であり、危機管理課からも参加できるとのこと。投光機については、消防団に在籍する消防団所属メンバーが操作できるということもあり、話の流れで、急きよ、次回お茶会の集まりで実施してみる事となった。具体的には①照明の確保として投光機組立②トイレ二種の組立
- ③ 飲料用タンクに水道の蛇口を設置。 ※訓練届は、四谷特別出張所が担当
- ③ ラップ等、地域独自に必要なと感じる備蓄物品の検討を避難所運営協議会としていきたい。

【次回、レディス会 11月22日(土) 13:00～ ライブラリーに集合】

※移動して、各種体験。終了時間によって、ライブラリーで反省会・意見交換会。